

スポーツ健康学部

I 2012 年度認証評価 努力課題課題に対する改善計画（報告）書

該当なし

II 2015 年度 大学評価委員会の評価結果への対応

【2015 年度大学評価結果総評】

スポーツ健康学部では、2013 年度に実施した学生モニター制度のグループインタビューによって浮かび上がった事項について、学部内における協議を通して、継続的、組織的に改善を図っている。それらをもとに、自己点検・評価活動に積極的に取り組んでいることを評価したい。また、学生の状況に合わせたきめ細かな教育指導がなされている点も合わせて評価したい。今後、これらの取り組みを着実に検証し、学部の教育活動にフィードバックしていくことを期待したい。さらに教員が学部の質保証活動に参加する一連の取り組みは評価できるが、質保証委員会の機能が不明確であり、本委員会の学部における自己点検・評価活動の役割を明示する必要があると考える。

【2015 年度大学評価委員会の評価結果への対応状況】（～400 字程度まで）

大学評価委員会の評価結果において指摘のあった、スポーツ健康学部における質保障委員会の機能をより明確にして自己点検・評価活動に反映させることとする。

III 自己点検・評価

1 教員・教員組織

【2016 年 5 月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

【教員像および教員組織の編制方針】（2011 年度自己点検・評価報告書より）

設置審査の過程で十分に検討されており、完成年度までは以下の教員組織で運営する。

本学部には、スポーツ科学の研究者をはじめ、わが国を代表するトップアスリートとしての経験を持つ指導者や総合型地域スポーツクラブの推進者、医師、理学療法士、鍼灸師、アスレティックトレーナー等の資格を有する健康科学者など多彩な人材、18 名が専任教員として就任している。また、専任教員 18 名のうち、8 名については学内からの移籍者であり、その多くは平成 17 年度より本学がスポーツ文化の担い手を育成することを目的に開設した、学部横断プログラム「スポーツ・サイエンス・インスティテュート（SSI）」での教育を実践してきた経験者である。なお、専任教員には大学において教育研究経験を実践してきた者、社会的な経験を有する者の他にも、博士の学位を取得している者が 4 名と医師免許を有する者が 2 名おり、学部として研究機能を果たすための業績を有する教員が確保されている。期待される教員像として、スポーツ、医科学の知見に秀で、かつ豊富な実践指導経験有し、資格取得に関しても適切な助言を与えることが出来、加えて教学に関わる運営全般にわたり積極果敢に取り組む意欲ある人材を求めている。

1.1 学部等として求める教員像および教員組織の編制方針を明確にしているか。

①採用・昇格の基準等において、法令に定める教員の資格要件等を踏まえて、教員に求める能力・資質等を明らかにしていますか。

はい いいえ

【根拠資料】※教員に求める能力・資質等を明らかにしている規程・内規等の名称を記入。

・スポーツ健康学部専任教員の任用に関する基準、スポーツ健康学部教授・准教授の任用（昇格）に関する基準

②組織的な教育を実施する上において必要な役割分担、責任の所在を明確にしていますか。

はい いいえ

【学部執行部の構成、学部内の基幹委員会の名称・役割、責任体制】※箇条書きで記入。

・学部執行部は、学部長、教授会主任、教授会副主任の 3 名で構成している。
・学部内委員会として教務委員会、資料室委員会を含む 7 つの委員会を設置している。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

・スポーツ健康学部教授会 各種委員一覧

③教員組織の編制において大学院教育との連携を考慮していますか。

はい いいえ

(～400 字程度まで) ※教員組織の編制において大学院教育との連携にあたりどのようなことが考慮されているか概要を記入。

2016 年度に開設した大学院（スポーツ健康学研究科）は学部で教育したスポーツ健康学を深化するため、学部の教員 17 名中 11 名が関わっている。今後、学部教育と大学院教員がさらなる連携を進めるべく教員組織を改編していく。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

- ・学部および大学院の教員組織構成表

1.2 教育課程に相応しい教員組織を整備しているか。

①学部（学科）のカリキュラムにふさわしい教員組織を備えていますか。

はい いいえ

(～400字程度まで) ※教員像および教員組織の編制方針、カリキュラムとの整合性等の観点から教員組織の概要を記入。
 学部設置認可に至る過程で教員それぞれが担当科目について審査を受け、「ヘルスデザインコース」「スポーツビジネスコース」「スポーツコーチングコース」の3コースにおいて、それぞれに相応しい専門分野を持つ教員が均等に配置され教員組織が編成されている。2014年度大学評価報告書でも上記評価を受けている。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

- ・各コース別の教員組織構成表

2015年度専任教員数一覧

(2015年5月1日現在)

学部・学科	教授	准教授	講師	助教	合計	設置基準上 必要専任教 員数	うち教授数
スポーツ健康	13	1	3	1	18	14	7

専任教員1人あたりの学生数(2015年5月1日現在): 35.7人

②特定の範囲の年齢に著しく偏らないように配慮していますか。

はい いいえ

【特記事項】(～200字程度まで) ※ない場合は「特になし」と記入。

教員の採用・昇格の基準等については、独自に内規を策定し、教員の資格要件をふまえて、求める能力、資質等を明らかにしている。ただし女性教員比率の改善が課題である。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

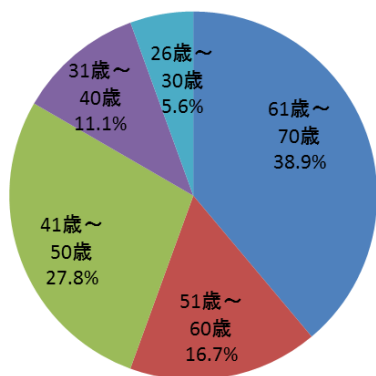
- ・特になし

年齢構成一覧

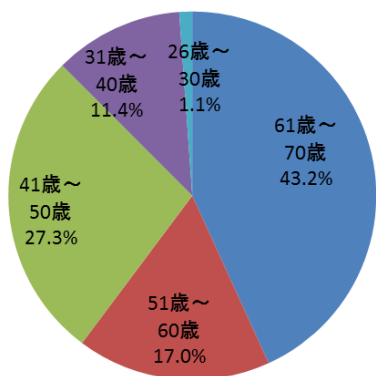
(2015年5月1日現在)

年度\年齢	26～30歳	31～40歳	41～50歳	51～60歳	61～70歳
2015	1人 5.6%	2人 11.1%	5人 27.8%	3人 16.7%	7人 38.9%

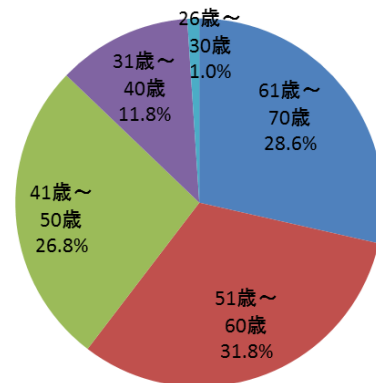
年齢構成比
(2015年度スポーツ健康学部)



年齢構成比
(スポーツ健康学部過去5年平均)



年齢構成比
(過去5年全学部平均)



1.3 教員の募集・任免・昇格は適切に行われているか。

①各種規程は整備されていますか。

はい いいえ

【根拠資料】※教員の募集・任免・昇格に関する規程・内規等の名称を箇条書きで記入。

- ・スポーツ健康学部専任教員の任用に関する基準、スポーツ健康学部教授・准教授の任用(昇格)に関する基準

②規程の運用は適切に行われていますか。

はい いいえ

【募集・任免・昇格のプロセス】※箇条書きで記入。「上記根拠資料の通り」と記載し、内規等(非公開)を添付することでも可。

- ・専門分野や年齢構成等、偏った教員構成にならないよう、委員会設置→候補者選定→業績審査→教授会決定という一定

の過程を設けている。	
1.4 教員の資質向上を図るための方策を講じているか。	
①学部（学科）内のFD活動は適切に行なわれていますか。	A <input checked="" type="checkbox"/> B C
【FD活動を行うための体制】 ※箇条書きで記入。 ・特にFDの為の組織は設けずに、執行部が中心となり進めている。 【2015年度のFD活動の実績（開催日、場所、テーマ、内容（概要）、参加人数等）】 ※箇条書きで記入。 ・春学期・秋学期の「授業見学ウィーク」のほか、学生による授業評価を踏まえた「授業運営に関する意見交換会」の機会も設けている。また、授業改善アンケート結果を教授会にて公表し、教員に授業改善の意識を持たせている。 【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。 ・特になし	

(2) 特記事項

※上記点検・評価項目における 2015 年度新規取り組み事項および前年度から変更や改善された事項等について、箇条書きでそれぞれの概要を記入。ない場合は「特になし」と記入。

内容	点検・評価項目
・特になし	

(3) 現状の課題・今後の対応等（任意項目）

※(1)～(2)の内容を踏まえ、現状の課題および今後の対応等について箇条書きで記入。課題がない場合は「特になし」と記入。

・特になし

【この基準の大学評価】

<p>スポーツ健康学部においては、3つのコースに相応しい専門分野を持つ教員が均等に配置された教員組織が編成され、学部内に設置された7つの委員会並びに学部執行部体制のもとに、各コースにおける教育が進められている。また、学部教員17名のうち、スポーツの現場経験や、保健体育教育に関する実践経験のある11名の教員が大学院教育を担当し学部教育との連携を図る体制となっている。</p> <p>教員組織については、年齢構成に偏りがみられ、改善への取組みが進んでいるが、新任教員の採用に当たり計画的な配慮が望まれる。また教職課程が手薄になっており対応が必要である。</p> <p>FD活動に関しては、「授業見学ウィーク」や「授業運営に関する意見交換会」などを設けているほか、授業改善アンケート結果を教授会において公表するなど、積極的な取組みが行われている。</p>

2 教育課程・教育内容

【2016年5月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

【教育課程の編成・実施方針】 1. 学習に対する姿勢、生涯にわたり学ぶことの必要性を教える「視野形成科目」や多彩な専門家のもとで学ぶ「専門基礎科目」「専門基幹科目」「専門科目」「専門演習」をとおして、一貫した教育を行う。 2. スポーツ健康学部の先端的な教育研究を理解するために必要な英語能力を養成する。 3. コース共通の科目群を設定し、所属する全学生が「スポーツ健康学」の基礎となる体育学、健康科学、スポーツビジネスの基礎知識を涵養することを目指す。 4. スポーツ健康学教育の知見は、豊富な実技・実習を通じた体験学習によって会得できる。設定された目標課題にむけ、幅広い視点から考察を加え、学内および学外の施設を利用した実技・実習科目を豊富に設定し、多角的に準備された場によって鍛え上げ、社会に貢献できる人材を育成する。 5. 大学教育における小集団教育の重要性に鑑み、1年次から4年次まで演習を開設し、勉学への動機づけと専門性の徹底を図るとともに、仲間意識の涵養や教員との人格的接触機会の増大に役立てる。	
2.1 教育課程の編成・実施方針に基づき、授業科目を適切に開設し、教育課程を体系的に編成しているか。	
①学生の能力育成の観点からカリキュラムの順次性・体系性を確保していますか。	<input checked="" type="checkbox"/> A B C
(～400字程度まで) ※カリキュラム上、どのように学生の順次的・体系的な履修への配慮が行われているか概要を記入。	

当学部は2年次において「ヘルスデザインコース」「スポーツビジネスコース」「スポーツコーチングコース」の3コースから将来を見据えたコースを選択し、より専門性の高い授業を受講できるカリキュラム編成としている。	
【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。 ・法政大学スポーツ健康学部 設置の趣旨等を記載した書類	
②幅広く深い教養及び総合的な判断力を培い、豊かな人間性を涵養する教育課程が編成されているか。	A B C
(～400字程度まで) ※カリキュラム上、どのように教養教育等が提供されているか概要を記入。 スポーツを広く文化としてとらえることで教養を深め人間性を涵養すべく、「視野形成科目」を全コースの必修選択科目と位置づけ、人材育成に取り組んでいる。	
【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。 ・法政大学スポーツ健康学部 設置の趣旨等を記載した書類	
2.2 教育課程の編成・実施方針に基づき、各課程に相応しい教育内容を提供しているか。	
①学生の能力育成のための教育課程・教育内容が適切に提供されていますか。	A B C
(～400字程度まで) ※学生に提供されている教育課程・教育内容の概要を記入。 2013年度より運用を開始した新カリキュラムが、目標通り学生の能力育成の観点から適切に教育内容が提供できているかを、順次検証している。	
【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。 ・スポーツ健康学部カリキュラム表(新・旧)	
②初年次教育、キャリア教育は適切に提供されていますか。	A B C
(～400字程度まで) ※学生に提供されている初年次教育、キャリア教育に関し、どのような教育内容が提供されているか概要を記入。 初年次教育としては、1年次の少人数クラスによる「スポーツ健康学入門」として、「読み・書き・コミュニケーション能力の向上」につながる授業を行っている。また、キャリア教育としては、教員がスポーツ・健康関連企業に関する情報提供や、「専門演習」「実習科目」を通してのインターンシップの奨励、サポートを行っている。	
【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。 ・特になし	
③学生の国際性を涵養するための教育内容は適切に提供されていますか。	A B C
(～400字程度まで) ※学生に提供されている国際性を涵養するための教育に関し、どのような教育内容が提供されているか概要を記入。 スポーツ先進国である米国の学習・研究環境・スポーツ文化に接することにより、国内とは別の視点で文化としてのスポーツを学際的に学習・研究するため、ボイシー州立大学での研修プログラムを提供している。	
【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。 ・特になし	

(2) 特記事項

※上記点検・評価項目における2015年度新規取り組み事項および前年度から変更や改善された事項等について、箇条書きでそれぞれの概要を記入。ない場合は「特になし」と記入。

内容	点検・評価項目
・特になし	

(3) 現状の課題・今後の対応等(必須項目)

※(1)～(2)の内容を踏まえ、現状の課題および今後の対応等について箇条書きで記入。

<ul style="list-style-type: none"> ・2013年度から始まったカリキュラムが2016年度で完成することから、このカリキュラムを検証するとともに、さらに新しいカリキュラム改革に向けた話し合いを進める。 ・2016年度に行う上記のカリキュラム改革に向けた話し合いの中で、初年時教育の方策も検討する。 ・学生の国際性を涵養するための内容を現状の海外課外研修(ボイシー州立大学)に加えて新しい研修先を加えるための検討を開始する。
--

【この基準の大学評価】

スポーツ健康学部では1年次の総合教育科目、専門基礎科目を主体とした教育に始まり、2年次からの3つのコースに分かれた専門教育に入るカリキュラム編成は、体系的に組み立てられており高く評価できる。また、豊かな人間性を涵養するために「視野形成科目」を全コースの必修選択科目と位置付け、人材育成を図る取り組みは評価できる。できれば「視野形成科目」の多様性を高めるため、選択可能な教養系科目の追加を検討してはどうか。

学生の能力育成に向けた、実習演習科目が1年～4年次にかけて数多く配置されている点は、学部の特色をよく表しており評価できる。

初年次教育科目として「スポーツ健康学入門」が、またキャリア教育として「キャリア形成論」があり、さらに公開科目の「キャリアデザイン論」を履修可能とするなどキャリア教育関連の充実をはかっている。さらにスポーツ・健康関連企業に関する情報提供、インターンシップへのサポートなどが提供されているほか、国際性の涵養に向けた、米国ボイシー州立大学での研修プログラムなどでもビジネス系のプログラムへ拡大を予定するなど特色のある取り組みが行われている。

3 教育方法

【2016年5月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

3.1 能力育成の観点から教育方法および学習指導は適切か。	
①学生の履修指導を適切に行っていますか。	A B C
<p>【履修指導の体制および方法】 ※箇条書きで記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> 学生への履修指導は、学年ごとに「新年度ガイダンス」「春学期終了ガイダンス」「秋学期終了ガイダンス」を開催している。各種資格については個別の「資格ガイダンス」を行い、必要に応じて学年を分けるなどきめ細かな指導に取り組んでいる。 <p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> 特になし 	
②学生の学習指導を適切に行っていますか。	A B C
<p>(～400字程度まで) ※取り組み概要を記入。</p> <p>学習指導については、通常授業・演習を問わず、授業内容が当学部の学生に共通する進路に関係するような場合は、学習意欲や進路を考える際の一助となるよう、公開授業にするなどの工夫をしている。また「専門演習」においてはインターンシップや現場実習も取り入れ、社会と密接に関わっているスポーツ・健康分野ならではの学習研究と、将来の目標設定を実践の中で並行しながら考えられるよう、多様な場や機会を設けている。また各教員のオフィスアワーを明確にしている。それ以外の時間も、学生の研究室への訪問が容易になっており、履修相談・進路相談に随時、適切な対応を行っている。欠席の多い学生や、提出物に不備が多い学生には連絡・面接等を行い、学生の状況を常に把握するよう努めている。</p> <p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> 特になし 	
③学生の学習時間（予習・復習）を確保するための方策を行なっていますか。	A B C
<p>(～400字程度まで) ※取り組み概要を記入。</p> <p>学生の学習時間（予習・復習）の確保については、シラバスの内容に沿って適宜、促している。</p> <p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> 特になし 	
④教育上の目的を達成するため、新たな授業形態の導入に取り組んでいますか。	A B C
<p>【具体的な科目名および授業形態・内容等】 ※箇条書きで記入（取組例：PBL、アクティブラーニング、オンデマンド授業等）。</p> <ul style="list-style-type: none"> 特に実習科目においては、学生自身が考え、実践する中で知識や情報を得たり、学生同士で相互評価をするなどの活動を通して学習を深められるよう取り組んでいる。 <p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> 特になし 	
3.2 シラバスに基づいて授業が展開されているか。	
①シラバスが適切に作成されているかの検証を行っていますか。	はい いいえ
<p>【検証体制および方法】 ※箇条書きで記入（取組例：執行部（〇〇委員会）による全シラバスチェック等）。</p>	

<p>・シラバスは、教員の専門分野において学生のレベルに沿った内容とするよう作成している。</p>	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <p>・特になし</p>	
②授業がシラバスに沿って行われているかの検証を行っていますか。	はい <input type="checkbox"/> いいえ <input type="checkbox"/>
<p>【検証体制および方法】 ※箇条書きで記入（取組例：後シラバスの作成、相互授業参観、アンケート等）。</p> <p>・スポーツ・健康のジャンルは現代社会に密接に関連していることから、実際の授業ではタイムリーなテーマを取り上げることもあるが、最終的には授業全体として目的に合致しているか否かを判断し、授業改善アンケート等を参考に、より適切な内容となるよう各教員が取り組んでいる。教職をはじめとする各種資格取得のために必要な科目については、資格ごとに必要な内容が授業に盛り込まれているか否かの確認を行っている。</p>	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <p>・特になし</p>	
<p>3.3 成績評価と単位認定は適切に行われているか。</p>	
①成績評価と単位認定の適切性を確認していますか。	A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C <input type="checkbox"/>
<p>【確認体制および方法】 ※箇条書きで記入。</p> <p>・成績評価と単位認定については、各教員がシラバスの記載に基づいて適切に行っている。</p>	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <p>・特になし</p>	
②他大学等における既修得単位の認定を適切な学部（学科）内基準を設けて実施していますか。	はい <input type="checkbox"/> いいえ <input type="checkbox"/>
<p>(～400字程度まで) ※取り組み概要を記入。</p> <p>他大学における既修得単位の認定については、シラバスの内容を本学部の授業内容と照合し、詳細に検討して適切に実施している。</p>	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <p>・特になし</p>	
③厳格な成績評価を行うための方策を行っていますか。	A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C <input type="checkbox"/>
<p>(～400字程度まで) ※取り組み概要を記入。</p> <p>成績評価を筆記試験だけでなく、通常授業時の小テストやアンケートなど、常に学生からのリアクションを得ることで、理解度とともに物事に取り組む姿勢なども総合的に評価している。</p>	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <p>・特になし</p>	
<p>3.4 教育成果について定期的な検証を行い、その結果を教育課程や教育内容・方法の改善に結びつけているか。</p>	
①教育成果の検証を学部（学科）ごとに定期的に行っていますか。	A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C <input type="checkbox"/>
<p>【検証体制および方法】 ※箇条書きで記入。</p> <p>・年度の初めに、前学年で開講された必修科目の内容について「専門知識習熟度テスト」を実施し、教育成果の定期的な検証を行い、この結果を教授会で共有している。</p>	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <p>・特になし</p>	
②学生による授業改善アンケート結果を組織的に利用していますか。	A <input type="checkbox"/> B <input checked="" type="checkbox"/> C <input type="checkbox"/>
<p>【利用方法】 ※箇条書きで記入。</p> <p>・授業改善アンケートの結果は執行部が確認し、必要に応じて対応するようにしている。</p>	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <p>・特になし</p>	

(2) 特記事項

※上記点検・評価項目における2015年度新規取り組み事項および前年度から変更や改善された事項等について、箇条書きでそれぞれの概要を記入。ない場合は「特になし」と記入。

内容	点検・評価項目
・特になし	

(3) 現状の課題・今後の対応等 (必須項目)

※ (1) ~ (2) の内容を踏まえ、現状の課題および今後の対応等について箇条書きで記入。

- ・スポーツ健康学は従来の体育学同様、実習系授業が多く、学生と教員、双方向のやり取りによる授業形態は多くみられている。一方で新しい授業形態(アクティブラーニングやオンデマンド授業)に積極的に取り組んでいるとは言い難い。特にオンデマンド授業は本学部にて在籍している冬季競技や遠征の多いトップアスリートたちにとっては有用であるため、学部全体で取り組むべく検討を進める。
- ・教育上の目的を達成するために、今後も引き続き学習面での学生への対応を積極的に行っていく。

【この基準の大学評価】

スポーツ健康学部の履修指導に関しては、学年ごとに「新年度ガイダンス」「春学期終了ガイダンス」「秋学期終了ガイダンス」を開催するなど、きめ細かな指導が行われていることについて高く評価できる。「スポーツ指導基礎資格」、「アスレティックトレーナー」「健康運動指導士」「健康運動実践指導者」、「トレーニング指導者」など各種資格取得と対応するコース制の設置などについての取組みが行われている点に関して、スポーツ健康学部の特色として評価できる。シラバスについては適切に作成し、検証されている。

海外研修は、これまでボイシー州立大学でスポーツと英語を合わせて修得するものとして教育効果が認められる。さらにボイシー州立大学へビジネス系の学生に対しても門戸を広げる計画や、米国他大学へ展開を検討するなどスポーツ健康学部独自の取り組みとして高く評価できる。

教育成果の検証に関しては、前年度開講の必修科目について翌年当初に「専門知識習熟度テスト」による、教育成果の定期検証が行われている。遠征の多いトップアスリートに対するオンデマンド授業をきるだけ早く実現できるように努力して欲しい。

4 成果

【2016年5月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

【学位授与方針】

スポーツ健康学部における教育の目的は、「スポーツ健康学」を教育研究することにより、わが国のスポーツ振興と個人の健康づくりに貢献できる人材を養成することにある。その意味で本学部にて設置する3コースの専門領域である「ヘルスデザインコース(健康の増進)」「スポーツビジネスコース(生涯スポーツ社会の実現)」「スポーツコーチングコース(スポーツの指導)」は不可分に関連している。

「スポーツ健康学」の修得には、ヘルスデザイン、スポーツビジネス、スポーツコーチングに関する知識を独立した学問分野として学ぶだけではなく、これらを相互に関連づけ、幅広い知識を組みあわせることが必要である。

また、単なる知識の集積に留まらず、体験学習を重視し様々な実技・実習科目によって、最新の理論と整合させながら、実務能力と教育研究能力を身につけ、卒業後は社会で十分に活躍できる能力を涵養することを目的とする。

4.1 教育目標に沿った成果が上がっているか。

①学生の学習成果を測定していますか。 A B C

(~400字程度まで) ※取り組みの概要を記入(習熟度達成テストや大学評価室卒業生アンケートの活用状況等)。

年度の初めに、前学年で開講された必修科目の内容について「専門知識習熟度テスト」を実施している。教育成果の定期的な検証を行い、学習成果については、特に学生の課外活動等における自主的な取組への参加、また卒業研究の発表会によって行っている。

【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。

- ・特になし

②成績分布、進級などの状況を学部(学科)単位で把握していますか。 はい いいえ

【データの把握主体・把握方法・データの種類等】 ※箇条書きで記入。

- ・成績分布、試験放棄、進級状況については把握し、教授会において情報を共有している。

【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。

- ・特になし

③学習成果を可視化していますか。 A B C

【学習成果可視化の取り組み】 ※取り組みを箇条書きで記入(取組例: 専門演習における論文集や報告書の作成、統一テ

ストの実施、学生ポートフォリオ等)。

- ・年度の初めに、前学年で開講された必修科目の内容について「専門知識習熟度テスト」を実施し、得点の上位者を発表して表彰している。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

- ・特になし

4.2 学位授与(卒業・修了認定)は適切に行われているか。

①学生の就職・進学状況を学部(学科)単位で把握していますか。

はい いいえ

【データの把握主体・把握方法、データの種類の等】※箇条書きで記入。

- ・1年生から3年生は取得を希望する資格の調査を行っている。4年生については、進路希望・内定獲得先・最終的な進路を4月のガイダンス、夏休みに入る前、冬休みに入る前の3回調査を行い、集計結果を教授会において共有している。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

- ・特になし

(2) 特記事項

※上記点検・評価項目における2015年度新規取り組み事項および前年度から変更や改善された事項等について、箇条書きでそれぞれの概要を記入。ない場合は「特になし」と記入。

内容	点検・評価項目
・特になし	

(3) 現状の課題・今後の対応等(必須項目)

※(1)～(2)の内容を踏まえ、現状の課題および今後の対応等について箇条書きで記入。

- ・引き続き専門知識習熟度テストを活用し学生の学習成果の把握に努める。
- ・専門知識習熟度テストは1・2年次の学習成果を把握するためのものであるため、3・4年次の学生成果を把握するための方策を学部および各コース別に検討を進める。

【この基準の大学評価】

スポーツ健康学部では年度初めにガイダンス及びインタビューを行っている。前年度に開講された必修科目の内容について「専門知識習熟度テスト」が実施されて、教育成果の定期的な測定が行われており充実したガイダンス資料を作っていることは評価される。また、このテスト結果の得点上位者を公表し表彰する制度は学生の学習意欲を向上させる有効な手段であると考えられる。この取り組みをさらに拡充するとの意向であり、実現されることに期待する。

学生の就職・進学状況の把握については、進路希望・内定獲得先・最終的な進路に関する調査を4月、夏休み前、冬休み前の計3回の調査を集計し、教授会において共有する体制は機能していると思われるが、進路指導の観点からはさらにきめ細かな状況把握体制を検討してもらいたい。

5 学生の受け入れ

【2016年5月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

【学生の受け入れ方針】

スポーツ健康学部では、社会に対する責任を深く理解した上で、スポーツ健康学を多角的視野に立って修得し、人と健康に関する諸問題を発見、解決する能力を鍛え上げ、国際舞台にたくましく雄飛できる心身共に健全、頑強な若き人材を育成することを目的としている。このような能力を備えた人物を養成するためには、入学者が基本的な学力を持っていること、および勉学の習慣を身につけていることが必須である。

これらを検証するために入学選抜に、学力試験を行う。この学力試験は、基礎学力の有無を問うことと、勉学の習慣を身につけているかどうかを問うためのものである。

また、創造性を高め、相互に切磋琢磨する教育環境としては、多様な学生が一堂に会していることが必要であり、多様な学生を集めるために以下のような入学制度を設ける。(1) 付属校推薦入試(本学付属校の入学有資格者を選抜する)、(2) スポーツ推薦入試(大学基準によるスポーツの技能に優れた者を選抜する)、(3) 自己推薦入試(理数系科目に優れた者およびスポーツ実践能力に秀でた者を選抜する)、(4) トップアスリート特別入試(スポーツの技能に特に優れた者を選抜する)、(5) 社会人入試(Jリーグをリタイヤした選手を選抜する)

5.1 適切な定員を設定し、学生を受け入れるとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。

①定員の超過・未充足に対し適切に対応していますか。

はい いいえ

(～200字程度まで) ※入学定員・収容定員の充足状況をどのように捉えているかを記入。

求める学生像・修得しておくべき知識等の内容・水準について学部パンフレットにより周知を図っている。

【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。

・特になし

定員充足率 (2011～2015年度)

(各年度5月1日現在)

種別\年度	2011	2012	2013	2014	2015	5年平均
入学定員	150名	150名	165名	165名	165名	
入学者数	199名	121名	167名	162名	162名	
入学定員充足率	1.33	0.81	1.01	0.98	1.04	1.03
収容定員	450名	600名	615名	630名	645名	
在籍学生数	574名	690名	704名	666名	642名	
収容定員充足率	1.28	1.15	1.14	1.06	1.00	1.12

5.2 学生募集および入学者選抜は、学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に実施されているかについて、定期的に検証を行っているか。

①学生募集および入学者選抜の結果について検証していますか。

A B C

【検証体制および検証方法】 ※箇条書きで記入。

・入試経路別に成績を集計し、この結果を教授会で共有している。

【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。

・特になし

(2) 特記事項

※上記点検・評価項目における2015年度新規取り組み事項および前年度から変更や改善された事項等について、箇条書きでそれぞれの概要を記入。ない場合は「特になし」と記入。

内容	点検・評価項目
・特になし	

(3) 現状の課題・今後の対応等 (任意項目)

※(1)～(2)の内容を踏まえ、現状の課題および今後の対応等について箇条書きで記入。課題がない場合は「特になし」と記入。

・特になし

【この基準の大学評価】

スポーツ健康学部の学生定員の管理に関しては過去にかなりの定員超過が認められたが、近年はその適正化が図られ、適正な管理が行われている。

入試経路別の成績集計を実施し、集計した経路別の評価結果をもとに、入学後の学生指導の資料として活用していることは評価できる。

6 学生支援

【2016年5月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

6.1 学生への修学支援は適切に行われているか。

①卒業・卒業保留・留年者および休・退学者の状況を学部(学科)単位で把握していますか。

はい いいえ

【データの把握主体・把握方法・データの種類の等】 ※箇条書きで記入。

・退学・留年については、教授会において正確に把握し情報を共有している。

【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。

・2015年度 在籍異動および在籍者報告	
②成績が不振な学生に対し適切に対応していますか。	A B C
【成績不振学生への対応体制および対応内容】 ※箇条書きで記入。 ・成績が不振な学生については、科目担当教員から事務を通して執行部に報告され、個別に対応している。 【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。 ・特になし	
③学部（学科）として外国人留学生の修学支援について適切に対応していますか。	A B C
（～400字程度まで）※外国人留学生の修学支援に関する取り組みの概要を記入。 現在まで学国人留学生が入学していないため対応していない。 【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。 ・特になし	

(2) 特記事項

※上記点検・評価項目における2015年度新規取り組み事項および前年度から変更や改善された事項等について、箇条書きでそれぞれの概要を記入。ない場合は「特になし」と記入。

内容	点検・評価項目
・特になし	

(3) 現状の課題・今後の対応等（任意項目）

※(1)～(2)の内容を踏まえ、現状の課題および今後の対応等について箇条書きで記入。課題がない場合は「特になし」と記入。

・特になし

【この基準の大学評価】

スポーツ健康学部の卒業・卒業保留・留年および休・退学者については、学部教授会を通して把握されている。また、成績不振者は科目担当教員からの情報が学部執行部に報告され、個別に学生あるいは保護者も交えた面談を実施し、学生、保護者が納得する解決策を見出す努力が行われており評価できる。なお、今までに外国人留学生の入学は無い。成績不振者などに対しては各教員が個別に対応するのではなく組織的な支援体制の整備が必要と思われる。

7 内部質保証

【2016年5月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

7.1 内部質保証システム（質保証委員会）を適切に機能させているか。	
①質保証委員会は適切に活動していますか。	はい いいえ
【2015年度質保証委員会の構成、開催日、議題等】 ※箇条書きで記入。 ・「授業見学ウィーク」の実施、兼任教員を含めた「懇談会」の開催等のほか、随時、教員同士で情報交換を行っている。学部内のPDCA体制として、「授業見学ウィーク」→「授業運営に関する意見交換会」→「懇談会」となるようスケジュールを組み、具体的に議論を進め改善につなげられるよう行っている。	

(2) 特記事項

※上記点検・評価項目における2015年度新規取り組み事項および前年度から変更や改善された事項等について、箇条書きでそれぞれの概要を記入。ない場合は「特になし」と記入。

内容	点検・評価項目
・特になし	

【この基準の大学評価】

スポーツ健康学部は執行部が質保証委員会委員を兼務した形で実質的に質保証活動を推進している。その活動は習熟度別クラス編成の導入など具体的な成果として認められる。教員数が少ない学部で執行部が内部質保証活動をあわせて担うことは止むを得ない面があるが、他方で内部質保証のためには第三者的な視点が必要であることも事実である。執行部と

は独立した形で質保証委員会を設置し活動する形態が望まれる。

【大学評価総評】

スポーツ健康学部は、「卒業生アンケート調査報告書（2015年度）」によれば、学部満足度が高い上に、教養教育、専門教育の満足度が全学のトップクラスにある。また、教授陣、ゼミナール、カリキュラム全般に関する満足度も全学のトップクラスにある。海外研修プログラムの参加者も多く、スポーツ、キャリア、英語教育を融合させたプログラムとして高く評価される。さらには、建物・教室や食堂などの施設・整備に対する満足度も全学のトップクラスにあり、極めて充実した教育が行われている。実質的な自己点検活動の成果も認められるが学部運営と混然一体となった感がある。自己点検活動の改善のためには、2015年度大学評価委員会の評価結果への対応状況にあるとおり、質保証委員会の機能を明確にして学部運営や教務の運営と独立した活動として自己点検・評価活動を差別化した体制にする必要がある。